

展示番号	文献名	説明	出版年
S-1	絵本江戸土産	<p>初代広重晩年の作品。(1-6編は初代の作品、7編は初代か二代か不明、8-10編二代の作品)。 江戸市中及び近郊の景趣を描き、略解説を記し添えた淡彩色摺りの簡易地誌絵本。先例作の西村重長画「絵本江戸土産」三冊(宝暦三年(1753)刊)及び鈴木春信画「絵本続江戸土産」三冊(明和五年(1768)刊か)の後を追う形で制作され、前二者の画文併置、説明的な画調に対し、挿絵を本位とし、情趣を備えた作品。 行筆淡彩ながら彫摺は丁寧で、広重調が大らかに表出している。同シリーズは嘉永3年(1850)に初編から4編までが刊行され以下続刊。まさに2代に跨る広重風景画の集大成と言うべき作である。</p>	嘉永3(1850)年叙-慶應3(1867)年序
S-2	江戸切絵図本所深川絵図 全(文久版)	<p>嘉永年間刊行図を中心とする尾張屋板江戸切絵図。嘉永版が26図、安政版が28図、文久版が30図でワンセットとなる。のち文久3年に「八丁堀細見絵図」が加わり31図ワンセットとなり大揃と称し、好事家に珍重された。武家、寺社、町家、川・堀・海、山林・原・土手などを色分けし、上・中・下屋敷、木戸など記号であらわす。多色、寺社の絵画的表現など錦絵風の親しみやすさで広く用いられた。郊外や著名な料理屋、蕎麦屋」まで載せた江戸観光ガイドマップでもある。本所深川絵図は、それら切絵図の一図。収図範囲は、墨田区南部、江東区西部一帯。北は竪川から南は海辺まで大川から東は横川までの一帯。西の越中島は黒船来航後、調練所となっている。</p>	文久2(1862)年

展示番号	文献名	説明	出版年
S-3	東京市深川区全圖(3版)	<p>・大きさ:75×99cm(折りたたみ 20×14cm) ・縮尺:1/5000 本図は東京郵便局が明治38(1905)年10月に刊行した地図で、町名、番地が記載されている。業務用に作成されたと推定される。また、官庁、病院、学校、社寺、会社、製造工場等、主な建物が記載されている。越中島では明治35(1902)年移転してきた商船学校、水産講習所、工業試験所(農商務省所管)、陸軍中央糧秣廠(明治30(1897)年設置)が記載されている。なお、地図には「区内町名河岸名一覧表」が表記されている。また、附録に「区内著名の建物位置(明治30年10月調査)」がある。</p>	明治38(1905)年
S-4	随筆冬の蠅	<p>永井荷風著作の随筆集。 深川東森下町長慶寺樓門を荷風自身が撮影しており、そのページを公開</p>	昭和10(1935)年